

## 第9 1回かながわ中央メーデーにあたってのメッセージ

日本のメーデーは、1920年に第1回が開催されてから100年となります。メーデーは労働者の地位や労働条件の向上などを社会に向けてメッセージを発信するとともに、産別・単組の垣根をこえた組合員同士の貴重な交流の場として、大きな役割を果たしてきました。

今年の第9 1回かながわ中央メーデーについては、新型コロナウイルスの感染が拡大し、収束の目途が立たない状況にあり、参加者の健康と安全の観点から、インターネット上でのメーデー開催とさせて頂きました。ご理解をお願い申し上げます。

さて、今回のスローガンは「平和、人権を守り、持続可能な社会をめざし、働く仲間の笑顔あふれる未来をつくろう」とさせて頂きました。

今日本は、人口減少と超少子高齢化社会を迎えており、すでに顕在化している労働力不足への対応、社会保障と地域社会の持続可能性の確保が大きな課題となっています。さらに、AIやIOTなどの技術革新の進展は、利便性の向上などが期待される一方で、曖昧な雇用の増加などの問題が指摘されています。このような認識をふまえ、私からは2点についてふれ、メッセージとさせて頂きます。

はじめに、働き方改革についてです。本年4月より、雇用者の7割を占める中小企業においても、働き方改革の時間外労働の上限規制等が適用されました。過労死を防ぎ、誰もが希望を持って、仕事と生活を両立させる社会に向けて、それぞれの労使で、あるべき働き方を追求し労働時間の最適化を図っていかなければなりません。

また、同一労働同一賃金についても、集団的な労使関係を通じて、すべての労働者の立場にたった働き方の実現が不可欠です。そのためにも組織拡大の取り組みも重要です。

次に、支え合い助け合い運動についてです。急速なグローバル化は、経済活動を大幅に拡大させましたが、むきだしの市場原理主義は、全世界に格差と貧困、社会の分断と差別化を生み人権意識の希薄化を招きました。日本では、非正規で働く労働者の増加や、雇用の流動化と不安定化、中間所得層の地盤沈下、貧困や格差の固定化などが大きな課題となっています。人々が互いに認め合い、支え合う共生社会の構築をめざして、労働組合も社会を構成する重要なステークホルダーとして、地域社会との連携強化が必要です。

これまでメーデー会場では、労福協から提起させて頂いた「タオール本運動」と、余っている食材をお持ちいただく「フードドライブ」の活動を実施してきました。メーデーの開催形式は変更しますが、構成組織皆さまの引き続きのご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、メーデーの起源を心に刻み、大きな社会変化がもたらす様々な社会課題を乗り越え「働くことを軸とする安心社会ーまもる・つなぐ・創り出すー」の実現に向けて力強く行動していきましょう。

2020年 4月20日  
連合神奈川 吉坂 義正